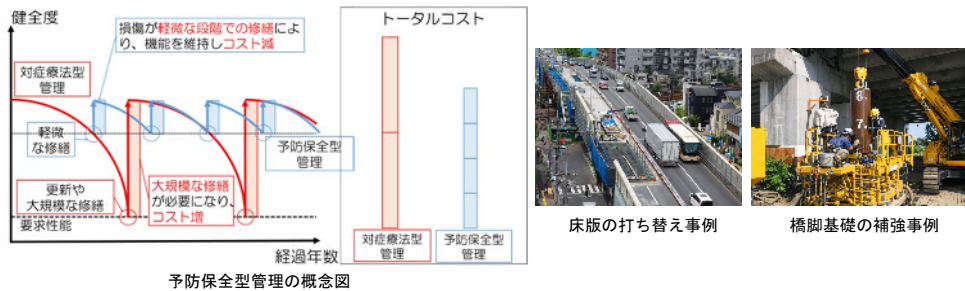


第二次橋梁予防保全計画の概要

1. 第二次橋梁予防保全計画とは

- 令和3年に「橋梁予防保全計画」を策定し5年が経過
- 最新の定期点検結果やこれまでの長寿命化・補修事業の取組みを検証
→計画をローリングし「第二次橋梁予防保全計画」に更新



目的：損傷や劣化が進行する前に適切な対策を行う予防保全型管理をより一層推進することで、更新時期の平準化と総事業費の縮減を図ると共に、都民の安全・安心を確保し、次世代に良質なインフラを引き継ぐ「持続可能な橋梁の維持管理」を実現する。

3. 本計画のポイント

◆事業計画のローリング

①長寿命化事業

- ・重要度等の高い橋梁（212橋）を対象
- ・建設時より性能を向上させて延命化を図る
- ・最新の定期点検結果を踏まえ予防保全的な補修を合わせて実施



10年間（令和8～17年度）で
47橋に着手（累計200橋着手）
※令和7年度末時点で153橋に着手済

②定期点検に基づく補修事業

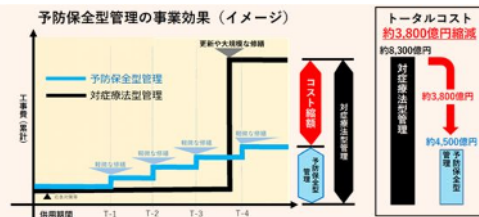
- ・①に含まれない橋梁のうち、最新の定期点検結果から補修等の措置が必要な橋梁を対象
- ・進行が早い損傷は軽微なうちに対策を講じる
- ・建設時と同等の性能を維持



次回の定期点検（令和11年度）
までに248橋で措置に着手
※令和7年度末時点で55橋に着手済

◆事業費縮減効果

従来の対症療法型管理（架替え）と
予防保全型管理の事業費を試算
⇒2050年（令和32年）までに約5割
（約3,800億円）のコストを縮減



2. 管理橋梁の現状と課題

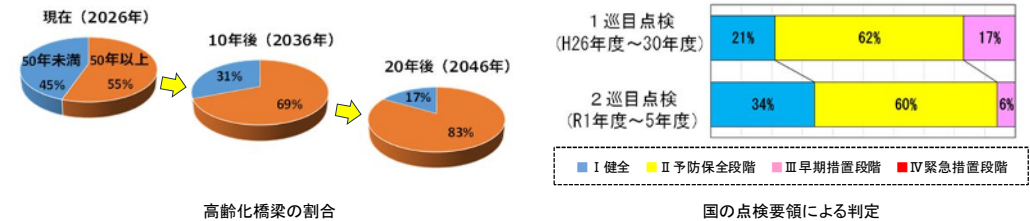
(1)橋梁の高齢化

供用年数が50年を超える橋梁（以下、「高齢化橋梁」）の割合は2026年（令和8年）4月時点で55%と半数を超えており、10年後には7割近くに達し、20年後には8割以上が高齢化橋梁となり、今後も増加していく。

(2)点検結果の推移

国の評価基準による2巡目点検の結果

- ・早期に措置すべきⅢ判定が約1割減少
- ・構造物が健全であるⅠ判定が約1割向上



4. 今後の取組

(1)計画のローリング

点検結果や社会情勢の変化等に基づく計画の見直し

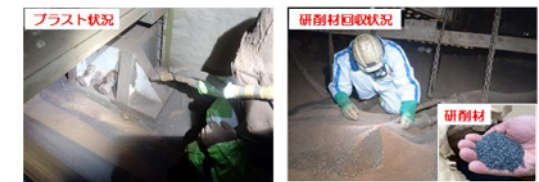
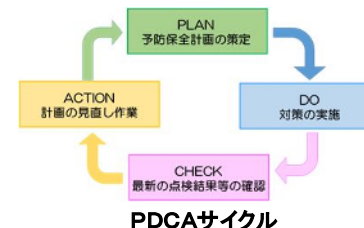
（維持管理において「PDCAサイクル」に基づく継続的な取り組みが重要）

(2)新技術の活用方針

点検や調査、補修・補強工事の各段階において、橋梁の特性、現場条件を踏まえた有効な新技術等を積極的に活用



点検ロボットを用いた斜張橋ケーブルの点検事例



塗替え塗装工事における循環型プラスト工法活用事例